令和 5 年 10 月 8 日(日)

初狩・笹子散策下見

島崎

1. 緒項

日時　令和 5 年 10 月 7 日（土）8：35 大月駅発
15：47 新田発　初月橋 16：10
16：30～17：20　いなだ屋反省会

参加者　小俣公司会長、武田様、溝口様、折笠様、島崎

2. 考察

予定に無い黒野田本陣にお伺いしたが、いろいろな話を聞けて今回の下見コース以上の情報を頂いた。是非 12 月にもう一度お伺いして話をお聞きしたい。

3. 12 月本番行事予定

コース：バス移動　大月駅 8：35 発⇒ 新田 9：13 着
徒歩移動　⇒ 明治天皇行幸時の野点跡、矢立の杉　約 1 時間
矢立の杉 ⇒ 黒野田本陣 約 1 時間 30 分　＊昼食
？　移動　⇒ 小山田信茂公首塚

4. 下見コース

①石井工業横 「百八十八番供養塔」と「立石坂の立石」　②宅地横の石塔
③親鸞聖人念仏供養塚　④稲村神社　⑤葦ヶ池の石碑
⑥笹一酒造トイレ休憩・みどり屋 笹子餅購入　⑦笹子駅横石碑
⑧天野景信公宅跡　⑨黒野田本陣　⑩普明院・芭蕉石碑　⑪新田＊昼食
⑫明治天皇行幸時野立跡　⑬矢立の杉・三寸道
行かなかった場所：黒野田番所跡、小山田信茂公首塚、芭蕉句碑、高巌神社

5. 下見内容

(1) 百八十八番供養塔

観音は生あるものすべてを三十三に化身して救済するといわれる。ここから三十三ヶ所の観音巡拝の信仰が起こったという。その始めは平安末期に和歌山の那智山で三十三ヶ所を巡る信仰が起こり，次いで鎌倉時代の板東三十三ヶ所、さらに室町時代に入って秩父三十三ヶ所、後にこれが三十四ヶ所となったので合せて百ヶ所となった。

この全部を巡ることを念じ、それを果たした信者が記念として、また現世の利益を得ようと造塔したものが百番供養塔である。

郷土資料館の説明では百番を巡った後に、信州の善光寺に参拝？するそうです。

この百番に四国八十八ヶ所の霊場を巡ったので、百八十八番供養塔を建てた。

立石坂の立石　看板の説明

岩殿山に住んでいた赤鬼が桃太郎一行に投げつけた右手の石の杖が力余ってここまで飛んできたと言い伝えられています。

写真(1)-1 百八十八番供養塔（5 月撮影）

写真(1)-2 鬼の立石（5 月撮影）

(2) 宅地横の石塔他

笹子町原吉久保の民家脇畑の横の石塔群

写真(2)-1 宅地脇の畑横石塔

写真(2)-2　1 の入口家の背面石塔

写真(2)-3 萬霊塔　2 の家の通り(旧 20 号バス通り)＊彫り直してあった。

(3) 親鸞聖人念仏供養塚

親鸞上人毒蛇済度の旧跡

原吉久保稲村神社前道路隔てた所に葦ヶ池にまつわる、毒蛇済度の供養塔の旧跡がある。葦ヶ池の石碑に記しているが 1225 年代、浄土真宗の開祖、親鸞上人が、等々力の精舎に参詣の折、吉久保の地頭、小俣左衛門尉重澄に「よし」の物語の後に懇願され、葦ヶ池の毒蛇化身成仏のため、名号石の投入に依って、毒蛇は成仏退散せしめた。名号称呼の地として今も此の地に伝わる。

よしの父小俣左衛門尉は、三年間京都に僧業し唯念と真木善福寺、第一世となる。法名、高源院寿松良徳居士である。又太布の名号、篠子川辺、葦窪の東白野庶民、寺の下の作太郎僧業を終え永讃防乗信となり真木福正寺四世となる。一世は渡辺修理亮、玄了上人 1284 弘安七年十月七日八十八才で寂す。

写真(3)-1 供養塚説明看板

写真(3)-2 親鸞聖人念仏供養塚（5 月撮影）

(4) 稲村神社

【資料】

吉久保原の産神　大寶山　稲村大神稲村四所明神(四所：黒野田、原、側子、小形山)
笹子村大字吉久保 1057 番地

祭神四神　国常立尊、素戔嗚尊(すさのおのみこと)、日本武尊、稲田姫尊
造営、嘉暦二年 1327 年　大鹿川氾濫荒廃、
一人二朱一年一両、明和八年、安永六年 1777 遷宮、社中に大小石棒を祀る詳細不明

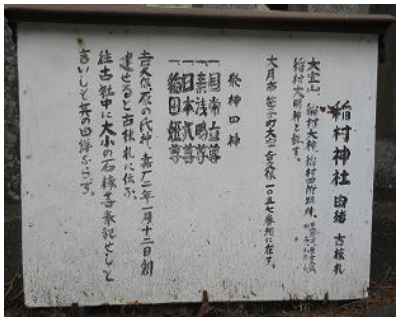
道祖神自然石文字道祖神

吉久保稲村境内にある、此の道祖神は山梨県でも希に見る、男根、女陰を形取った両体自然石道祖神である。往古より人間創造の神として、昔人の心願を集めて来たものではないか。道祖神には丸石、石棒、文字、道祖神と、又双体道祖神もあり、多様である。屋敷神としても理解されているのではないか？　一宮浅間神社に類似した一基がある。

＊写真は全て 5 月撮影

写真(4)-1 稲村神社

写真(4)-2 稲村神社



写真(4)-3 稲村神社

写真(4)-4　　写真(4)-5 男根、女陰道祖神　写真(4)-6 馬頭観音　　写真(4)-7 杉

(5) 葦ヶ池の石碑

現在の葦ヶ池の碑は移動されたそうです。実際は JR の線路の反対側(国道 20 号)にあったそうです。地主の都合で移動されたそうです。立て看板は殆ど読めない状態です。

＊ 今回末裔方が畑仕事をしていて話を聞かせて頂いた。「よし」の話は小俣家三代目とのこと。

＊ 石碑移動は 3 回目で、元は反対側（国道 20 号）の大月よりだったそうです。

【資料】

葦ヶ池とおよしの由来

往古、甲斐の沼橋として知られる。隅々　今から凡そ七百数十年前、後堀川天皇 1225(嘉禄元年)の頃、此の池の地頭、北面の武士(皇居を守る警護お庭番)小俣左衛門尉重澄、妻よし、重澄の父は尚家その妻は嵯峨、重澄の娘は「よし」よしは男共の憧憬の的なりしが、隅々京都より僧行のための修行僧、若き搢挺(しんてい)なる僧に想いを致せしが其の意の通ぜざるを悲しみ失意の果てにこの池に投身す、よしの霊は毒蛇と化身し、近隣人々又旅人を恐怖に落とし入れたと伝える。

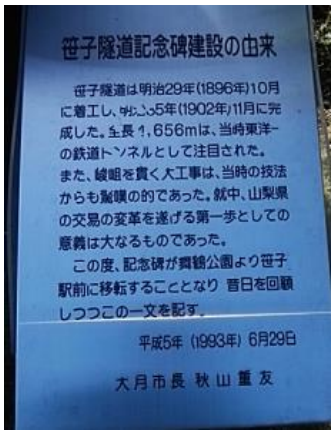
親鸞聖人が相州より甲州等々力の精舎、萬福寺に参詣した帰途、地頭重澄宅に立ち寄った際、重澄の懇願により、六子の名号を書き記した小石、数百個を三、七、二十一日間、池の周囲に投入し供養した所、毒蛇に化身したおよしの霊は成仏し、池中に、異様な轟きありて観世音大士となって昇天し、西南の空高く消え去りて、遠く伊豆の手石浜の阿弥陀窟がそれである。爾来此の池をよしヶ池、その地を葦ヶ窪と称名せりと口碑に伝える。

写真(5)-1 葦ヶ池の石碑

(6) 笹一酒造トイレ休憩・みどり屋買い物

トイレを借りたので買い物。みどり屋で笹子餅購入。

(7) 笹子駅横石碑



写真(7)-1 忠魂碑　　写真(7)-2 笹子トンネル開通記念碑と説明看板

忠魂碑：揮毫は元帥陸軍大将子爵川村景明によるもの。忠魂碑背面には「大正十五年建設　帝国在郷軍人会　笹子村分会」と刻まれている。明治以降の戦争で亡くなった兵士の魂を地方ごとに英霊として称えるために建立されたもの。

笹子トンネル開通記念碑：舞鶴公園から移された記念碑

笹子追分人形の歴史看板：山梨県無形民俗文化財「笹子追分人形」の歴史説明

写真(7)-3 笹子追分人形の歴史

(8) 天野景信公宅跡　＊（　）内ウィキペディア記述（天野景康）

JR 笹子駅の南、線路沿いの林道を４００ｍほど登ったところに小さな稲荷社が祀られる平場があります。

地元の伝承では天野宮内左衛門景信の屋敷跡とされ別名を黒野田御蔵屋敷ともいいます。

祠の脇には地元の有志によって建てられた石碑もあります。

遠州・犬居城主であった天野景貫の子・景信が黒野田に住み居館とした場所と伝わるそうです。

甲州街道を意識して北向きの斜面に構えられた館なのでしょうか

笹子峠が近いことから関所または見張り場のような施設があった可能性もありそうです。

現状ですが JR 中央本線開通の際に地形の改変があったと考えられます。

天野氏とは、遠江犬居（遠江北部）の天野（景貫）藤秀は当初今川氏に仕えていましたが、永禄十一年（1568）今川氏の滅亡の後は徳川家に仕えます。しかし、元亀三年武田氏の駿河・遠江侵攻の圧力に屈し武田氏に仕えるようになります（人質として嫡男景信が甲府に行く）。

その後は三河奥平氏などの山家三方衆を降す中心的な役割を果たすなど、武田氏の中で活躍していきます。

しかし、徐々に徳川氏の圧力を受けるようになり、天正三年（1575）とうとう徳川氏に敗れ、（父は）甲斐に退去（北杜市や笛吹市に知行を宛がわれる）。このあたりに居を構えたのだとか。やがて武田氏が滅亡し、今度は北条氏が甲斐の郡内地方に侵攻。郡内小山田氏遺臣などは北条氏に仕えたものが多く、（父と共に）天野景貫も北条氏に仕えました。（北条氏滅亡後の動向は不明であり、甲斐国黒星野（現大月市）に逃れて普明院を建立したとする説や‥‥）

写真(8)-1

写真(8)-2 天野景信公宅跡

写真(8)-2 宅跡内お社

＊御殿屋敷跡

徳川３代将軍家光の弟駿河大納言・徳川忠長が乱行などで甲府より高崎へ移る際に泊まったとの伝承もあります。忠長は蟄居の高崎城で切腹処分となった。

(9) 黒野田本陣

甲州は天領の期間が多いため、甲州街道は参勤交代に使う大名は三藩だけで有った。

本陣は門構え・玄関・上段の間がある。＊一般の者は泊める事は許されていない。

黒野田の助郷は都留で山を越えてくる。

事前に大名より「関札」が送られてきて、大名名と目的(休憩 or 宿泊)が書かれている。これを表門に掲げる。

内藤様は新宿―高遠城間約 240km を 5 泊 6 日で行き来する。昔の道で 40km とかなり速い移動である。

写真(9)-1 本陣説明

写真(9)-2 本陣床の間

写真(9)-3 梟の間

恋の間：丸い光取り窓に鯉の細工があり「鯉の間」と呼んでいたが、細工が壊れて外した。

写真(9)-4 鯉の間

写真(9)-5 欄間

甲州・東山道巡幸は、黒野田本陣山崎様の話ではお付きの 350 人で天皇は輿などで移動した。黒野田宿では全戸で分散して宿泊されたと思う。

＊ 山岡鉄舟は江戸城開城の幕臣代表だった方。西郷の頼みで明治 5 年より 10 年の約束で侍従として明治天皇に仕える

この上段の間に明治天皇が明治十三年六月十八日宿泊、天皇より三点を拝領した。

50 円、かわらけ(素焼き)の皿 2 枚、白い布

50 円は、明治元年白米換算 238,000 円　明治教員初任給換算 100,000 円

明治 34 年企業物価指数 74,500 円

写真(9)-6 山岡記述板

写真(9)-7 上段の間

写真(9)-8 門(明治天皇)

写真(9)-9 拝領

写真(9)-10 桐の箪笥

(10)普明院・普明院内芭蕉句碑

こちらのお寺は天正 4 年（1576）頃に遠州乾城主・天野景貫の子景信が開基し、桂林寺を退隠した笠元道大和尚が開山したとの寺伝である。遠州に復帰を望んでいたが、

天正 10 年（1582）の織田信長の甲州攻めにより天野親子はこの地を離れ北条家に仕えたとの記録がある。

尚、開山の笠元道大和尚は天正 11 年（1583）8 月 16 日寂。

その後、天明期（1750）頃に準開山され今日まで続いている。

こちらのお寺は阿弥陀如来が本尊で笹一酒造の南側にあった阿弥陀堂（如来）を移し本尊としたとのことです。移した厨子の中には天平元年（729）行基作の阿弥陀如来が祀られており、公開禁止で厳重に管理されており拝見できません。この旧阿弥陀堂の参道を阿弥陀海道と呼ばれております。また、敷地内に毘沙門堂があり、毘沙門天は遠州犬居城主・天野景貫の子景信と同じ身長なのだとか。景信の法名は「永昌院殿隣岩徳行居士」。

芭蕉石碑：「行くたびに いどころ変わる かたつむり」

写真(10)-1 位牌　遠州犬居城主・天野景信

写真(10)-2 芭蕉句碑

(11)新田＊昼食

(12)明治天皇行幸時の野点跡

350 人の行幸なので数カ所に石垣が組まれてある。場所は矢立の杉の数百ｍ下です。

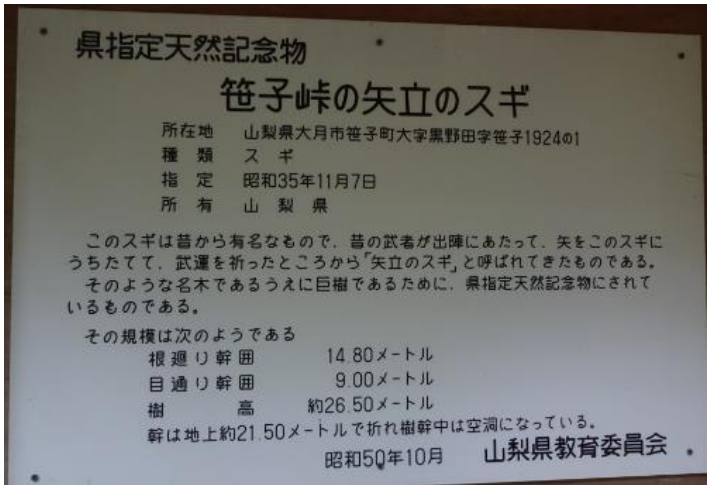
写真(12)-野点跡

(13)矢立のスギ・三寸道

矢をこの杉にうちたてて、武運を祈ったところから「矢立のスギ」と呼ばれてきた。県指定天然記念物。杉良太郎の歌で有名な矢立の杉です。

写真(13)-1 矢立のスギ①

写真(13)-2 矢立のスギ②



県指定天然記念物

笹子峠の矢立のスギ

所在地　山梨県大月市笹子町大字黒野田字笹子1924の1
種　類　スギ
指　定　昭和35年11月7日
所　有　山梨県

このスギは昔から有名なもので，昔の武者が出陣にあたって，矢をこのスギにうちたてて，武運を祈ったところから「矢立のスギ」と呼ばれてきたものである。
そのような名木であるうえに巨樹であるために，県指定天然記念物にされているものである。

その規模は次のようである
根廻り幹囲　14.80メートル
目通り幹囲　9.00メートル
樹　高　約26.50メートル
幹は地上約21.50メートルで折れ樹幹中は空洞になっている。

昭和50年10月　山梨県教育委員会

写真(13)-3 矢立のスギ③

かなり狭い道です。側面に障害物（木・崖）があると、馬で通れるか？

写真(13)-4 三寸道

以上